

○メディア教育研究（メディア教育開発センター研究紀要）執筆要領

〔平成9年3月31日〕
制 定

放送教育開発センター研究紀要執筆要領（平成元年7月18日制定）の全部を改正する。

第1 原稿は、A4版用紙に印刷したものを3部提出する。ワープロで印刷する場合は、1行40文字、1ページ35行とする。また、印刷工程の簡素化のために、以下の電子媒体を添付することが望ましい。

第2 提出する電子媒体と形式の指定は、次のとおりとする。なお、それ以外の媒体を利用する場合には、委員会に問い合わせるものとする。

- 一 媒体……3.5インチ・フロッピーディスク
(1.25MB/1.44MBフォーマット)
- 二 形式……MS-DOSテキストファイル形式、PageMaker形式、MS-DOSテキストファイル形式で格納されたTeXのソースファイルのいずれかとする。(スタイル・ファイルは暫定的にjarticleを使用)

第3 掲載する文章の長さは、論文、研究ノート及び研究展望それぞれ15ページ程度（1行22文字、1ページ39行2段組換算）とする。なお、図、表及び写真等は1点当たり200字分程度に、英文原稿は250wordsで400字分に換算する。

第4 原稿の構成は、次のとおりとする。

和文原稿の場合	英文原稿の場合
一 表題のページ 表 題 和文・英文 論文種類 著 者 和文・英文 所 属 和文・英文 謝 辞	一 表題のページ 表 題 英文 論文種類 著 者 英文 所 属 英文 謝 辞
二 日本語サマリーのページ 表 題 サマリー：400～800字 キーワード：5語程度	二 日本語サマリーのページ 表 題 サマリー：400～600字 キーワード：5語程度

三 英語サマリーのページ 表 題 サマリー：100～120語 キーワード：5語程度	三 英語サマリーのページ 表 題 サマリー：100～120語 キーワード：5語程度
四 本文、参考文献(図・表等) 最大15ページ程度	四 本文、参考文献(図・表等) 最大15ページ程度

第5 図及び表は、正確かつ明瞭に書く。それぞれの図及び表には、図1、表1のように通し番号を付すとともに、必ず題を付ける。なお、写真についても同様とするが、通し番号は不要である。

(例)

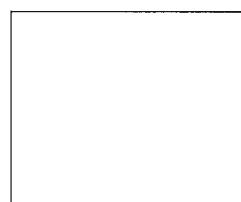
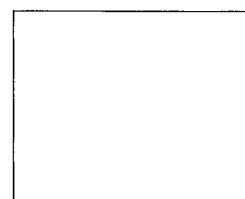


表1 △△△△

図1 △△△△



第6 図、表及び写真は、ハードコピーの文中に組み込むか、あるいは右側余白に通し番号などを用いて、挿入位置を明確に指示した上で、別に添付するものとする。なお、文中に図表などが組み込まれている場合、印刷の過程で別に鮮明な図表原稿の提出を求める場合がある。

第7 文章は、日本語又は英語とし、日本語は、現代かなづかいを用いる。

第8 固有名詞以外の外国語は、できる限り訳語を用い、必要な場合は、初出の際にのみ原綴を付する。

第9 数字は、原則として算用数字を用いる。

第10 注は、論文の末尾、参考文献の前に一括して入れ、本文中の当該箇所の右肩に1)、2)のようにして示し、さらに、右側余白に注記する。

第11 参考文献は、論文の末尾に著者名のアルファベット順に一括する。なお、表記形式は、

執筆者各自の所属学会規程等の形式による。

第12 執筆者による校正は、再校までとする。

第13 英文原稿の場合は、著者の責任において、
ネイティブチェックを行った原稿を提出するものとする。

(注) ファイル形式についての補足説明

• MS-DOSテキストファイル形式

文字列と改行コードのみを含み、ワープロの書式を含まないファイル形式である。コンピュータのワープロソフトで作成された文書の場合、保存時にテキスト形式を選択する。ワープロ専用機の場合、MS-DOSテキストへの変換を行うこと。また、マッキントッシュの場合、IBM互換機で読むことが可能なフォーマットにすること。

• PageMaker形式

組版ソフトウェアのAdobe PageMakerで作成されるファイル形式である。

• TeXのソースファイル

組版ソフトウェアのTeXで利用可能な文書ファイルである。書式を指定したコマンドが本文中に埋めこまれている。

附 則

この要領は、平成9年4月1日から実施する。

附 則

この要領は、平成10年3月25日から実施し、平成9年10月1日から適用する。

附 則

この要領は、平成11年2月9日から実施する。